

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園鎌田幼稚園

1. 本園の教育目標

<p>『わくわく のびのび たくましく～』 ～健全な心身の基礎づくりと調和的な発達を図る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身共に健康で明るく、だれとでもなかよく遊べる子どもを育てる。 ・主体的に遊びに取り組む中で、よく考え工夫する子どもを育てる。 ・豊かな感性をもち、感じたことを素直に伸び伸びと表現する子どもを育てる。
--

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の心身の発達や生活背景を的確に把握し、安心できる環境の下で「やってみたい」と主体的に取り組もうとする意欲を育成する。 ○ 一人一人の自主的、創造的な発想や表現の芽を大切にし、良さを認める指導を通して自己肯定感の向上を図る。 ○ 望ましい人間関係の形成を促進し、主体性及び粘り強さを育成する。 ○ 基本的な生活習慣と挨拶を身に付けさせるための、具体的な取組を計画的に実施する。 ○ 園児の充実した生活を支えるため、保護者への支援を充実させ、安心して子育てができる環境づくりに努める。 ○ 職員一人一人の資質向上に努め、園の研究テーマに基づき、年齢に応じた育ちを踏まえた教育・保育を推進する。 ○ 防災時及び災害時対応についての理解を深め、「命を守る」意識の醸成を図るために、計画的訓練を実施する。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 安全管理・安全指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では「園児自ら自分の命は自分で守る力」という意識の定着を目標とし、様々な場面を想定した訓練を実施した。本年度は、BCPを策定し、災害発生時における職員の役割及び動きについて協議を行った。今後も協議を継続し、実効性の高い体制の確立を図る。 ・隣接する小規模保育園と合同で総合避難訓練を実施した。 ・毎月1日を安全点検の日を定め、担当箇所を明確にしたうえで計画的に点検を実施した。遊具についても専門的視点による点検を年間を通して行い安全確保に努めた。
(2) 保護者や地域との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や小学校との交流を実施し、職員間の情報共有及び園児・児童の相互交流することができた。 ・今年度は、新たに小学校体育専科教員による早く走る方法を教えてもらうことができ、運動会を楽しみにする姿があった。また、小学校からも文化事業に声をかけていただき、小学生と一緒に沖縄の文化に触れたりダンスを教えてもらったりする機会がもて連携を深めることができた。 ・未就園児交流として、ふれあい遊びや制作活動、ミニ運動会など、様々な活動を年8回実施できた。 ・ホームページで保育活動を保護者や地域に向けて発信し、掲示している。また毎日の保育の様子をスケッチブックを活用し、写真も使って年間を通じて継続的に発信した。保護者の方からも好評を得ている。また、運動会や作品展、生活発表会の保育の過程は、コドモンで発信してより保護者の方が子ども理解と子どもの育ちへの理解促進に努めた。
(3) 子ども理解と保育内容の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、研究テーマを設定して、年間を通して計画的に研究を推進した。第1学期には、子ども理解を基盤とした安心できる環境づくりを重視し、保護者との信頼関係の構築に努めた。 ・職員会議も全体会議、支援会議、フリー担当会議等を通して情報共有及び意見交換を行い、組織的な保育の充実を図った。 ・子ども達が「やってみたい」と思える保育を考え、そこに至るまでの経過を細やかに計画してデジタル教材や達成感もてるカレンダーやカマダンというキャラクターを作り子どもたちがわくわくできる保育内容と工夫してきた。その結果、保護者からのアンケート結果からも「やってみたい」とわくわく楽しんで幼稚園生活ができたことがわかった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年度、香芝市幼児教育研究発表会の公開園を実施した。公開保育に向けて4月より職員間で話し合い研修を重ねてきた。自園は、2号認定児の増加に伴い子どもたちが安心安定した環境づくりを第1に考え、そうすることで主体性も育つとの考えから、「やってみたい」と心が動く保育をめざして～一人一人が安心して過ごすためには、どのような保育教諭の援助や環境構成が必要か～のテーマで取り組んできた。また外部講師を招聘し、幼児教育の専門的知識を学ぶとともに保育実践の振り返りを行った。保育の質の向上を図るために、日常の保育場面を丁寧に見直し、子どもの姿を基にした保育改善に努めた。保育教諭自身も、保育の導入に力を入れ、子どもたちが興味をもって取り組めるものに力を注いだ。その結果子どもたちからも様々な活動において「やってみたい」という言葉を多く聞くことができ達成できたと考える。
- ・保護者との連携において、保護者が安心して任せられる環境づくりとして、日々の保育の様子を積極的に発信し、信頼関係の構築に努めた。写真をつかって毎日の保育の様子を知らせてきた。保護者の方からも「幼稚園の様子がよくわかりました。子どもとの会話のきっかけになっています。」との声が聞かれたアンケートの結果からも一定の理解と評価を得ていることが伺えた。次年度は、コドモンを活用して、園での生活を知らせていきたい。
- ・幼保小、未就園との交流について、園児がさまざまな年齢の子ども達と触れ合えるようにしてきた。毎年定期的に行っているものもあるが、今年度は新たな取り組みも増えた。園からの働きかけも大切であると感じている。また、近隣の介護施設への訪問も年間を通じて行うことができた。高齢の方とのかかわりの少ない子どもも多くいるので、今後も継続していきたいと考える。次年度は地域とのかかわりで民生児童委員様を通じて広げていきたいと思う。
- ・特別支援児も多くいる中、外部からの講師先生を招き研修を重ねてきた。みんなと同じようにはなく、今どんな力を付けたいのかを考えて、保育することを職員間で共通認識しながら保育を進めてきた。
以上のことから、本年度の教育活動は概ね計画通りに実施できたものとする。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
特別な支援を必要とする園児への援助	・園児それぞれの発達段階を受け入れ、特別な支援を必要とする園児の特性を理解する。一人一人に合った関わりや支援方法について、職員間で対話する機会を大切にしながら共通理解し援助する。保護者と連携を取りながらすまいるノートを作成する。
教育の質と保育力の向上	・園のテーマを考え園内研修を計画し、外部講師を招聘して専門性を高める。また、互いの保育を見て学び合ったり、遊びについての研修を定期的に行ったりすることで、園児理解を深め、遊び込める環境づくりや援助について保育技術の向上に努める。次年度も引き続き、興味が持てる導入の工夫に取り組んでいきたい。
保護者や地域との連携	・保護者・地域の方・校種間の連携をすすめ、定着させるように努める。また、小学校へは継続している交流だけでなく、積極的に働きかけ、5年生や施設交流も増やしていきたい。未就園児保育では未就園児の集いの場をつくり、保護者の方が気軽に話せる機会を作っていく。
人権保育	・日々の保育をみつめ、子ども達の人権を尊重できているか研修する。また、不適切保育について考える機会をもち、職員間で何でも話せる関係を作っていく。

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- 子どもは、好奇心の固まりで、いつでも何に対しても「やってみたい」「触ってみたい」「声を出してみたい」「走ってみたい」それらの気持ちを大人が如何に受け止め、実現させられるかが、幼児教育の根本ではないかと思われる。
- 本園では、その「やってみたい」という一人一人の心を常に第1に考え、先生方が子ども達と作品を、遊びを、競技を、演劇を作り上げていく様子に感動させられた。
- 集団生活が初めての3歳児が安心して日々を過ごし、友達とのつながりを4歳児が築き、異年齢児との関わりを進める中で5歳児はぐんぐんリーダーとしての自覚を身に付けていく姿が見られた。そんな子ども達を見守る先生方のまなざしは常に温かい。共に楽しみ、しかし手を差し伸べる瞬間を見極めておられる。子ども達の成長を急がず、焦らず、じっくりと関わり寄り添っておられることに感謝申し上げたい。
- 雄大な二上山を仰ぎ見る広々とした園庭の樹々がクビアカツヤカミキリの被害にあっていることは残念でならない。伐採など早急な対応を安全のためにもお願いしたい。重ねて行政には園舎の老朽箇所の整備を強く望む。
- 令和7年度12月より幼稚園評価委員に携わり、本日の生活発表会を参観し感動いたしました。年代に応じてしっかりと発表ができ、支援児も共に最後まで優しく声をかける心遣いを見ることができました。小学校に行っても友達を大切に成長して行ってほしいです。